



# ヒラメ 日本海北部系群 令和3年度資源評価結果

# 生物学的特性

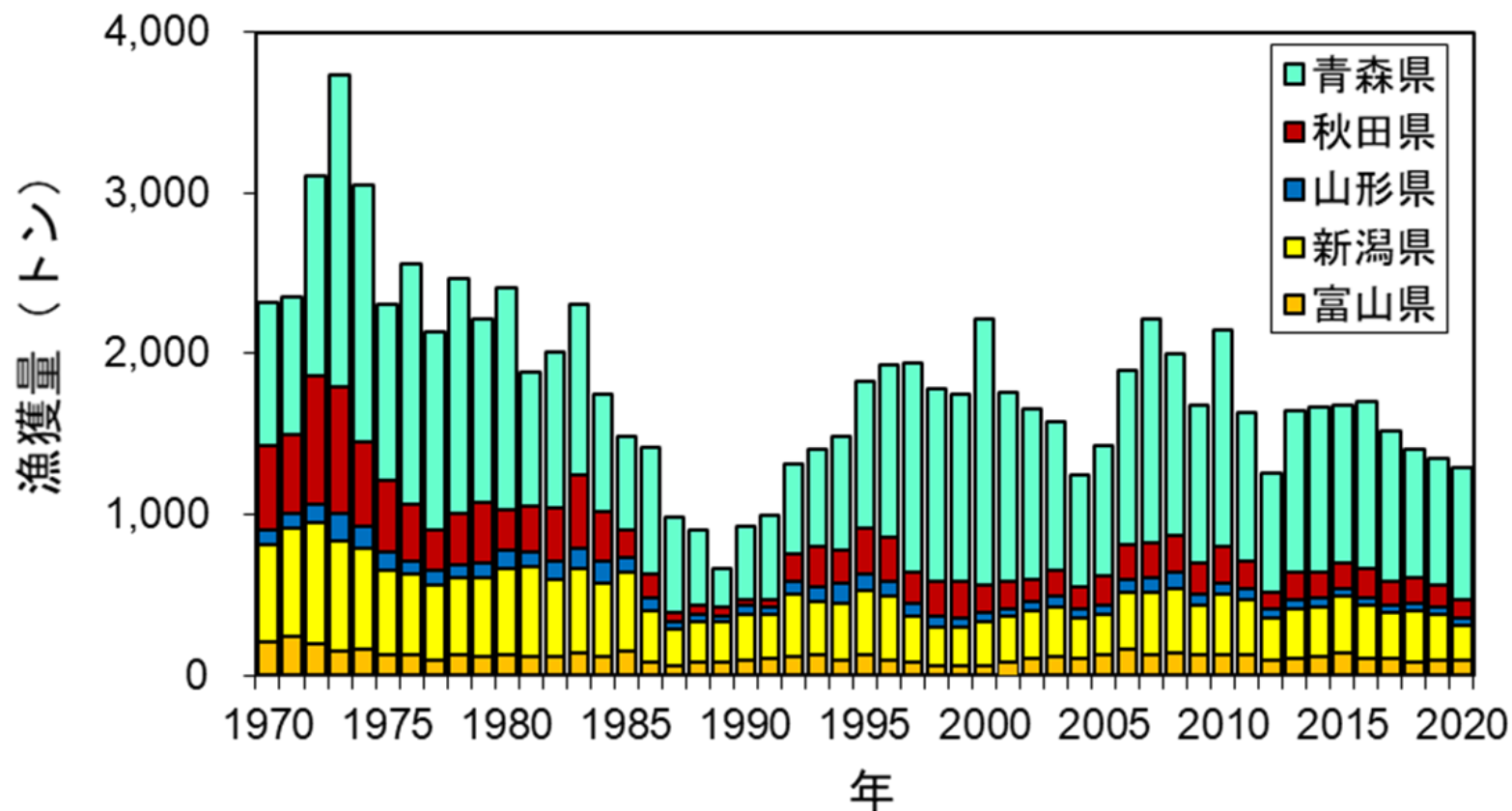


## 生物学的特性

- 寿命: 15歳程度
- 成熟開始年齢: 雄2歳、雌3歳
- 産卵期・産卵場:  
4~7月、南ほど早い、  
青森県から富山県沿岸
- 食性:  
着底後は主にアミ類、  
全長10cm以上では主に魚類、  
イカ類、エビ類等
- 捕食者:  
ヒラメ、マゴチ、オニオコゼ、  
アナハゼ、イシガニ、  
エビジャコ等

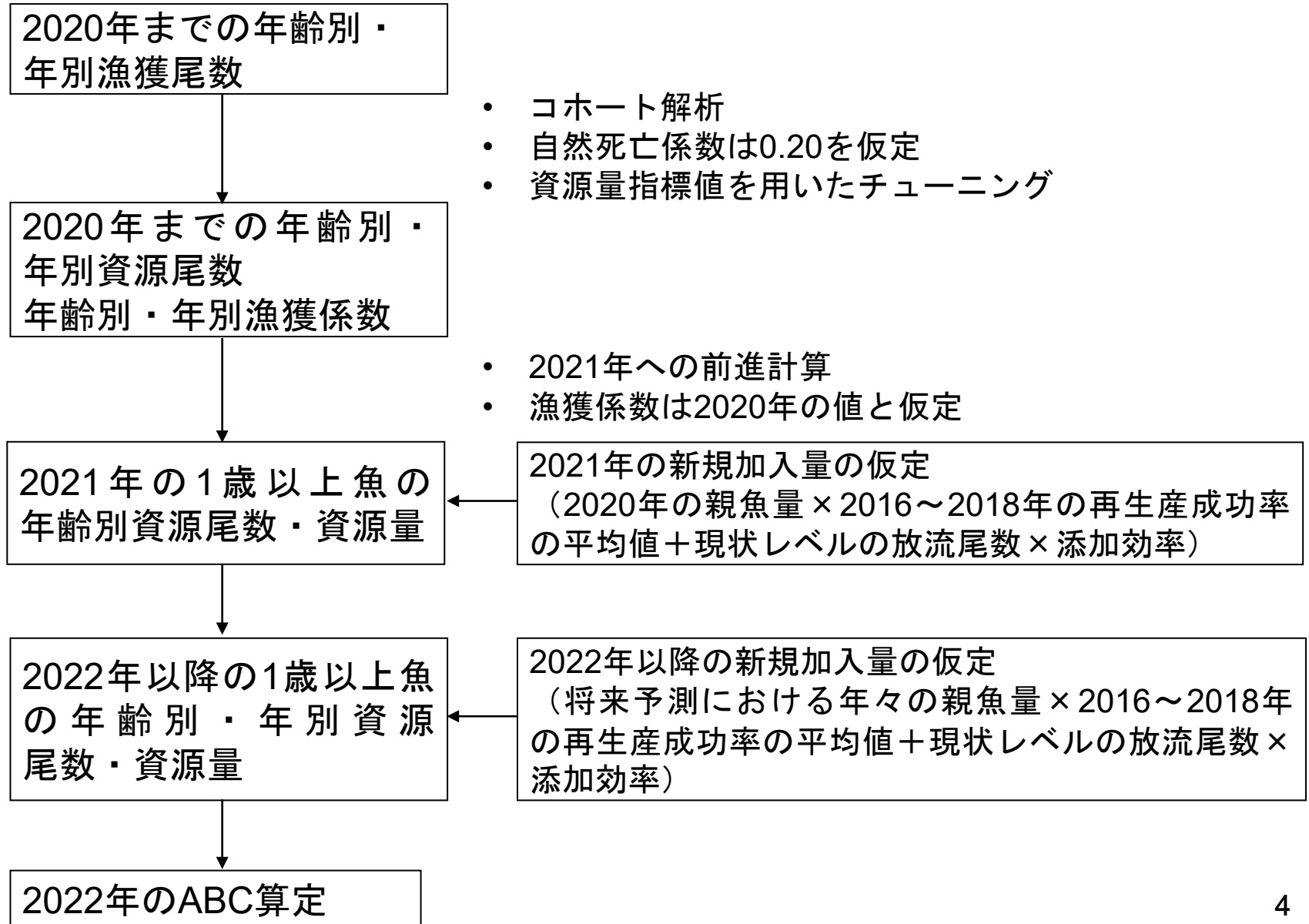
・ ほぼ周年漁獲され、漁獲量は周期的に変動

# 漁獲の動向

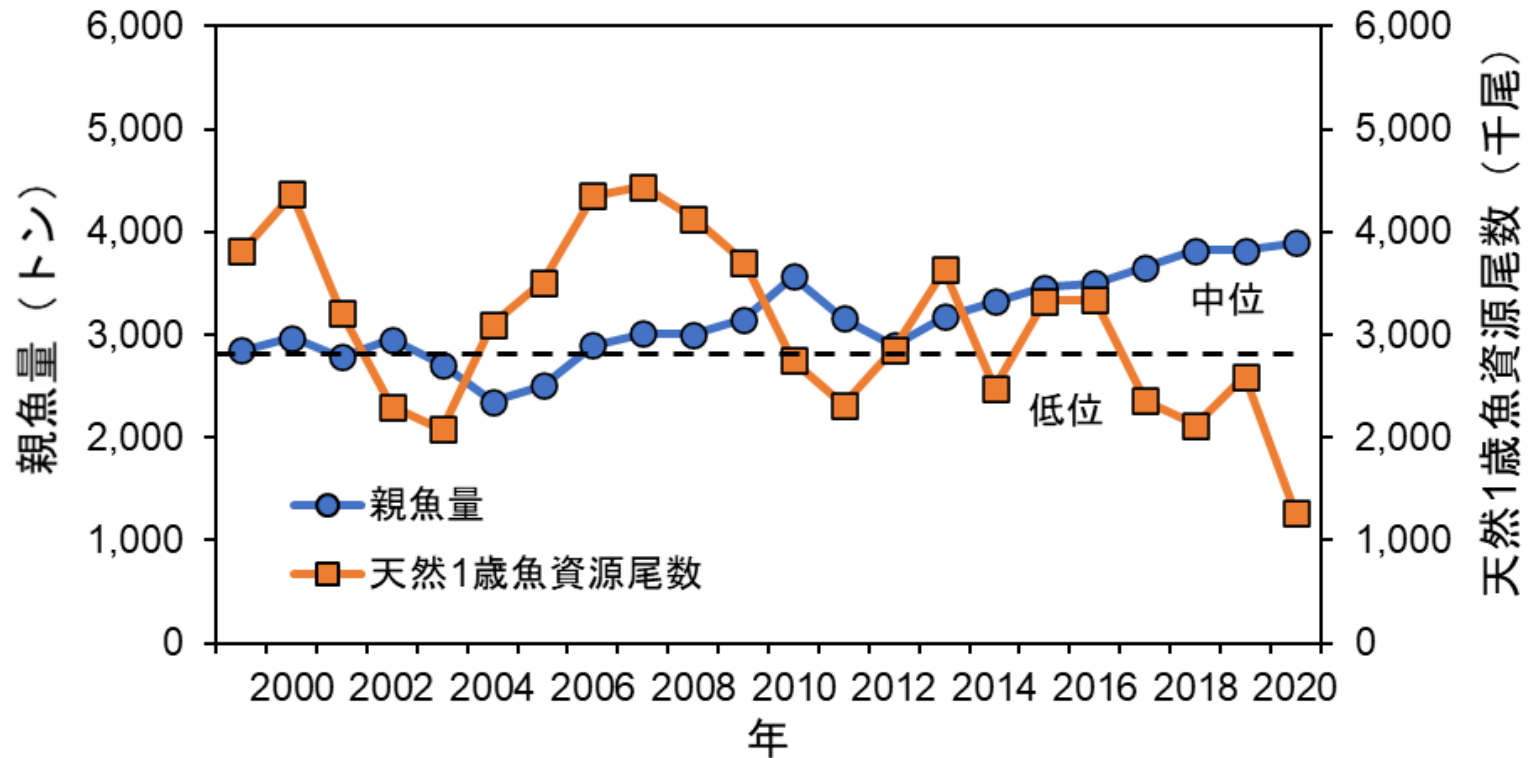


- 2020年の漁獲量：1,290トン（2019年：1,354トン）
- 定置網、刺網、底びき網など多種多様な漁業種類で漁獲される
- 2019年の放流尾数は240万尾、放流魚（1歳）の混入率は6.7%、添加効率は0.039

# 資源評価の流れ



# 資源の動向①



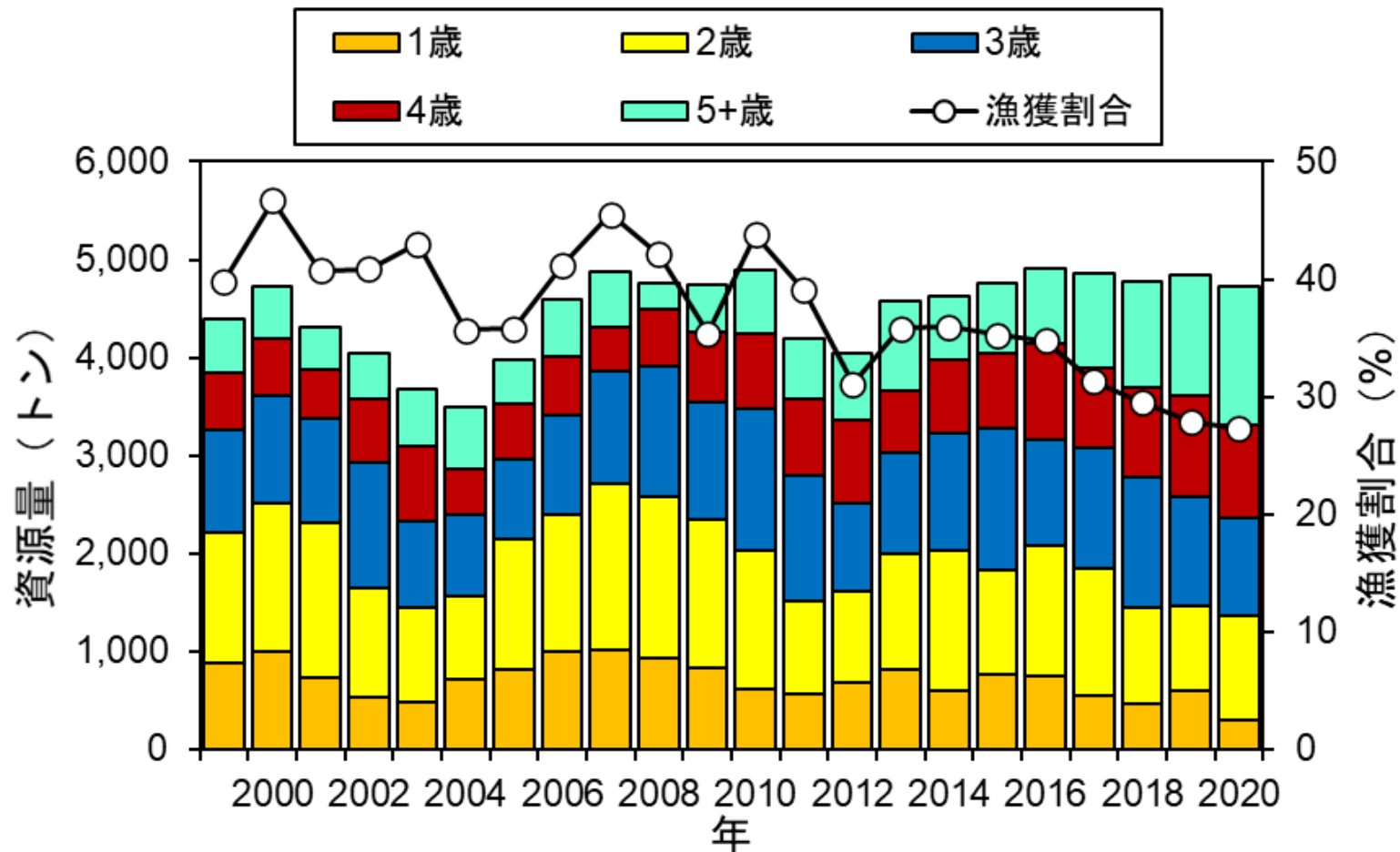
※水準区分 親魚量を指標値として、

低位／中位：Blimit (2,892トン)、中位／高位の境界は未設定

(Blimit：再生産関係より高い再生産成功率があった場合に高い加入量が期待できる親魚量)

- 親魚量：2013年以降緩やかに増加、2020年は3,956トン
- 資源水準：親魚量がBlimitを上回り「中位」
- 加入量（天然1歳魚資源尾数）：2020年は過去最低の130万尾

# 資源の動向②



- 資源量：2020年は4,798トン
- 資源動向：直近5年間の資源量の推移から「横ばい」
- 漁獲割合：長期的に低下傾向、2020年は27%

# 資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は横ばい
- 資源量指標値を考慮したコホート解析に基づき、親魚量にて水準を、資源量にて動向を判断した

## 2022年ABC

管理基準	Target / Limit	2022年 ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
F <sub>sus</sub>	Target	1,190	24	0.29 (-7%)
	Limit	1,430	29	0.37 (+17%)

- F<sub>sus</sub> : 再生産関係から導かれる資源を中・長期的に維持する漁獲圧